

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292300060		
法人名	社会福祉法人 日浦会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 ルミエール雪浦		
所在地	西海市大瀬戸町雪浦下釜郷40-6		
自己評価作成日	令和5年10月22日	外部評価結果確定日	令和6年1月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/houkoku/42/index.php?action_houkoku_detail_2023_022_kihon=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和5年12月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・雪浦川に面した自然に囲まれた環境で、リビングにあるベランダや居室から白鳥などの野鳥を見ることができ、入居者様の憩いの場になっています。
 ・協力医療機関の医師による週1回の往診や、年2回の健康診断で入居者様の健康管理に努めています。
 ・行事は各月の誕生日会をはじめ、夏まつり、敬老会、クリスマス会、節分など季節ごとに行うことで入居者様にメリハリのある生活を送っていただけるよう努めています。
 ・毎月の機関紙「ルミエールだより」や、入居者様ごとの「生活の様子」をご家族に発送することで施設の様子をお知らせし、ご家族にご安心いただくよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、入居者の生活状況を観察し、声かけをしてコミュニケーションを図り、「できること」「やりたいこと」を一緒に考え、自主的行動へと促している。声掛けにより入居者の表情も明るくなり穏やかな日常を送ることができている。かかりつけ医は、法人のグループ関連の医院であり、24時間体制で緊急の場合も指示を仰ぐことができ、入居者や職員からすると安心できる存在である。また、かかりつけ医は、病気の内容や予防など月2回の勉強会を行ってくれる。身体拘束関連の研修では、テストをするなど法人主体で管理を行い、身体拘束以外でも感染症・食中毒の予防などの研修も行っている。職員全体で同じ知識を習得することで、入居者が安心して生活できる支援体制を整えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼で、法人理念 「一、地域福祉に貢献」 「一、常にご利用者の満足度の追求」 「一、職員間の和をもって明るい職場づくり」を唱和している。	入居者が満足いくような生活ができるように、職員は施設内の環境作りを行っている。その中で、理念は施設組織に着実に根付いている。手作業レク等の「できること」「やりたいこと」を入居者ができるように、常に材料を準備し、支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症の影響により、小学校との交流会や地域行事への参加について地域と意見交換しているがまだ実現できていない部分が多いが、今年度は地域行事の「雪浦ウィーク」に参加できた。	市内外の人が施設のある地区を散策し地元の人とふれあうイベントに協力した。入居者はふれあいができないため、施設の庭を休憩所としてお菓子や入居者が作った折り鶴を提供した。運営推進会議を通して近隣の小学校の校長と交流があり、運動会等の誘いや、学校の行事の写真を貰い受けている。感染症の蔓延が落ち着けば児童と入居者がふれあう機会を持ちたいと願っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染症のため、外出や面会の時間制限によって実現できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症のため、まだ書面会議にて活動報告し意見をくことを継続している。	地域の有権者など多彩なメンバーが運営推進会議に参加している。2カ月に一度文書にて情報を発信し、意見をもらう。施設開設時より、書面会議が続いているため、施設見学を兼ねて対面式での運営推進会議を行いたいと考えている。	対面式の運営推進会議を開催するために、早めに参加メンバーへ通知し、意見が出やすいように進行の内容を考え準備することを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加で活動報告を行い現状を伝えるとともに、市役所を訪問した際に情報交換するなどしている。	入退所の異動届は郵送でも提出できるが、市の長寿介護課へ必ず出向いて提出している。担当者とは現状の報告など情報交換を行い、信頼関係を築いている。また、他の部署による介護サービスにおける運営指導(実地指導)に協力した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で一体的に行っている高齢者権利擁護委員会に当施設の委員が参加し、毎月の施設内の会議で報告している。また、身体拘束・虐待防止の研修を行い、全職員が受講している。	法人で行う権利擁護委員会に、施設から1名委員を選出し出席している。施設の会議において、伝達研修を行い職員間で共有する。施設内でも、虐待身体拘束についてeラーニング研修とテストを行い法人本部へ報告する。施設の入居者は高齢であり、転倒リスクが高い数名だけは、家族の同意を得て部屋にカメラを設置し夜間の見守りを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で一体的に行っている高齢者権利擁護委員会に当施設の委員が参加し、毎月の施設内の会議で報告している。また、身体拘束・虐待防止の研修を行い、全職員が受講している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人で一体的に行っている高齢者権利擁護委員会で、成年後見制度が必要な時に支援できる体制をとれるよう学ぶ機会を作っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に管理者または介護支援専門員がご本人・ご家族と面談を実施し説明を行っている。また、契約時の質問等には丁寧に対応し不安を無くすよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置し意見・要望を受け付けている。また、面会等の際に何か要望等はないかお聞きするようにしている。	職員は、家族が面会に来る際、必ず話しかけて意見を聞く。運営推進会議のヒヤリハットの報告により、職員へ危機管理について注意を促す提言を受け、職員にも通知した。苦情においては、真摯に受け止め、法人本部へ早急に報告し手紙で謝罪を行った。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝礼で意見や提案を聞き、毎月1回の職員会議で実現の可否や方法等を検討している。	職員からの様々な意見を基に、施設の環境改善、質の良いサービス提供へと繋げている。問題提起を受けた場合、管理者は法人本部へ報告し早期に問題解決を行う。職員は、施設内の広い空間において入所者が転倒する恐れがあることを認識しており、健康観察を行い、ふらつきなど転倒リスクが高い入所者の情報を職員間で共有し見守りをするなど、転倒のリスク管理を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	当法人では、各職員の業務への取り組みやその姿勢、結果に対する評価テーブルの見える化を行い、個別面談によるフィードバックを毎年2回行うことで向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月2回、協力病院の医師による研修を行っている。また、資格取得や研修受講の費用の支援を行うことで各職員がスキルアップしやすい環境を整備している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に他事業所の方の参加があり、情報交換に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できるだけそばにいて会話をしたり、一緒に過ごす時間を設けることで、不安や要望を話しやすい雰囲気を作るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めているものを理解し、施設ではどのような対応が出来るか事前に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	すぐ出来ることは実行し、出来ないことも検討し対応できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の暮らしの中で、各入居者様に出来ることをお手伝いしてもらう事で信頼関係を築けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の「ルミエールだより」や「ホームでの様子」でお知らせしたり、手紙を書いたりすることで日頃の様子をお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの予防のため外出・外泊はできていないが、オンライン面会、窓越し面会を行い支援している。	入居者一人ひとりの家族に写真付きの便りを毎月送付し、担当者からも電話で状況を伝えている。家族や友人との面会は、制限ありがあるができる。施設内には入所以前からの友人同士がいたり、レクリエーションをすることで顔なじみ関係を築いたりしている。新しく入所しても溶け込みやすい環境が作られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒にお手伝いやレクリエーションを行ったり、交流できるスペースを設けて会話ができるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	日浦グループ(法人・医療機関)でサービスが終了しても必要に応じて相談・支援ができるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各入居者様の思いや、希望、意向などを日々の生活の中から聞き取ったり、表情から読み取るなどして把握するよう努めている。	入居者自ら何をしたいかとの要望は少ない。その為職員がレクリエーションや趣味を勧める事が多い。入居者の中に折紙に興味がある方がおり、折り鶴を折っている。ご家族が来た時には、お土産として持ち帰っている。入居者の毎日の様子を申し送りノートに記録して職員同士共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント・ケアプラン作成後はモニタリングを定期的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の状態を日誌として記録している。また、変化があれば申し送り等で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者がモニタリングを行い、ケアマネジャーが介護計画を作成している。	介護計画の作成に当たり、ご家族からの意見は少ない。月に1回ルミエール雪浦会議では、入居者の状況、モニタリングや個別支援について話し合いを行っている。会議内容をたたき台として職員全員で介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各入居者様ごとに日々の暮らしを記録し、職員間の申し送り等で情報を共有することで、実践や介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族のその時々状況などに応じて、いろいろなサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に市職員、小学校、警察、地域代表、家族代表などに参加していただき、周辺情報や支援に対する情報交換、協力関係をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の他、ご本人やご家族が希望する医療機関を受診している。協力医以外は基本的には家族対応としているが、不可能な時には職員が代行している。	経営母体が医療法人であり、夜間、休日の医療体制については24時間連絡が取れるようになっており、医師の指示が受けられるようになっている。皮膚科は毎週月曜日に往診があり、歯科についても近隣の歯科を受診している。今後、歯科については、毎月往診してもらえるよう調整している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日誌や申し送りで介護職・看護職の情報を共有し週1回の往診時に協力医療機関の医師に報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時にはサマリーで医療機関との情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設では看取りは行っていない。重度化、急変時には、法人内の他の施設やグループの医療機関へ移っていただくことを入居時に説明している。	看取りは原則行っていないものの、緩和ケアについて行うことがある。入居者全員の食事の摂取量と排泄量はタブレットの記録の他に一目で分かるよう申し送りノートにも記載して職員同士が共有している。補食ゼリーの摂取を含め、入居者の食事摂取量が少なくなってきた時は職員も認識しており、病院へ転院することになっている。ご家族も入居当初から納得してもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応についてマニュアルを作成し、全職員が指導を受けいつでも対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災・自然災害それぞれに避難計画を作成し、それぞれ避難訓練を計画・実施している。災害時用の食品で賞味期限間近のものは訓練を兼ねて食べるなど工夫もできている。令和4年度より、西海市独自の避難確保計画書を提出している。	消防、防災計画書に基づいて年2回の避難訓練を実施しており、訓練の検証、記録の有無、運営推進会議への報告も確認された。非常時における 備蓄品については食料の他医薬品、衛生品、日用品の棚卸表が作成されていた。特筆すべきは非常食献立を3日分作成していた。	施設における、自衛消防組織表が確認できなかったため、今後の作成に期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけには、特に注意し尊厳を守る声かけを行っている。	当施設に権利擁護委員会が設置されており、職員に対して不定期にアンケート調査を行っている。特に高齢者権利擁護チェックリストを用いる事もあり、虐待や入居者に対する話し方や職員同士でも不適切な言動にならないよう学び、適切な介護を行うよう職員同士でも話し、改善している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴やレクリエーションの参加などは、ご本人が決定できるような声かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活の流れはあるが、各入居者様ごとのペースや体調、希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問美容で髪をカットをしてもらっている。また、服装選びはご本人が決める事が出来るような声かけを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各入居者様ごとの食事形態、嗜好等を把握している。また、できる方は下膳を一緒に行ったり、エプロンをたたむなどしてもらっている。	食事は普通食、きざみ食、ミキサー食、必要に応じてゼリー食を提供している。食事介助は全員が自立しており、食材の下準備の手伝いに豆の皮むきやもやしの根切を職員と一緒に楽しく行っている。メニューは関連施設の管理栄養士に作ってもらい、食事前に入居者へ口頭で伝え食事準備状況を見てもらい食事を楽しんでもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好き嫌いのある方には食材を変更するなどして、できるだけ対応している。また、居室でも水分補給できるよう、湯冷ましを置いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で歯磨きが出来る方には、声かけをして歯を磨くように促し、できない方は職員が毎食後口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各入居者様ごとの状態に応じて介助を行っている。トイレでの排泄や、排泄の自立に向けた支援を行い、紙パンツやパッドが必要な方には使ってもらっている。	入居者のトイレの声掛けタイミングは職員が共有している排泄チェック表で把握しており、個々のタイミングで誘導している。おむつの使用についてもおむつ管理表により使用状況に応じて変更している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘対策としては、コーヒーやジュース、飲むヨーグルトなど提供する飲み物を工夫して水分補給をしやすい環境づくりを行い、体を動かすレクリエーションも適宜行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯はある程度決まっているが、本人に要望を伺い、日時を変えるなど柔軟に対応している。	入浴は毎日行い、週3回を目標としている。入浴剤は施設が用意しシャンプーは入居者自ら好みのものを準備される方もいる。中には入浴を嫌がる方もおり、「一番風呂に入りませんか」等と声掛けをして入浴を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各入居者様ごとの習慣や体調、希望などに応じて休息や入眠ができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者様の薬の種類や副作用などの把握に努めている。服薬時は職員同士でダブルチェックを行い、飲み込みまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者様ごとの力を発揮してもらえるよう、お願いできそうな仕事を依頼し、感謝の言葉を伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナ感染症の影響により外出や外泊はできないが、バルコニーで日光浴をしたり、庭で散歩や花の世話をさせていただくなど、出来るだけ希望に添えるよう支援をしている。	新型コロナが5類に移行した後も全面的な外出は控えている。施設内で散歩の途中で休めるように座る石を設置して川をゆっくり眺めるよう工夫している。時折白鳥も見る事ができて、入居者も楽しみにしている。今後職員からお弁当を持って近くの公園に一緒に行きたいとの要望がでている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	新型コロナ感染症の影響により買い物等のための外出ができないため、本人所持はしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいという希望には出来るだけ応えるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングから外の景色がよく見えるようになっており、ソファーに座ってゆったりとした時間を心地よく過ごしていただけている。また、天気の良い日にはバルコニーに出て日光浴もできる。	共有スペースには、外からの日差しが眩し過ぎる時間帯があり、布によるスダレを設置して眩しさを軽減している。季節に合った飾り付けを職員が入居者と一緒に作り季節感を味わい、誕生会やレクレーションを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下にソファーや椅子を置いて、ゆったりと外を眺めたり、おしゃべりしたり、テレビを見たりなど思い思いのことができるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の配置などを今までと変わらないようにし、生活環境をなるべく変えないように配慮している。	居室には、これまでの生活が変わらないようタンスの設置をしており夏、冬の入れ替え時にはご家族へ協力をお願いして出来るだけシンプルな室内空間としている。中には写真等を置きたい要望もあり、入居者の希望通りの居室としている。持ち込み品は持ち込み管理表で管理しており、退所時のトラブルを事前に回避している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで、廊下も広く移動しやすくなっているため、できるだけ残存機能を生かしてご自身で移動していただくようにしている。その際、転倒などの恐れがある方は見守りを徹底している。		